

2008 年度秋季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日
2008 年 11 月 19 日 (水) ~21 日 (金)
第 3 日 (11 月 21 日)
午前：口頭, ポスター
午後：口頭
2. 会 場
仙台国際センター (仙台市青葉区青葉山)
3. 研究発表
口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。
4. 大会日程
大会は以下の日程で行われる予定です。
第 1 日 (11 月 19 日)
午前：口頭
午後：口頭, ポスター
第 2 日 (11 月 20 日)
午前：口頭
午後：授賞式, 受賞記念講演, シンポジウム,
懇親会
5. シンポジウム
大会第 2 日 (11 月 20 日) の午後開催予定です。テーマは「ダウンスケールシミュレーション—詳細な気象現象の再現を目指して—」です。
6. 懇親会
大会第 2 日 (11 月 20 日) の夕刻に、仙台国際センターにて開催予定です。
7. 大会ウェブサイト【2008 年 7 月 15 日 (火) 開設予定】
本大会では、講演申込み受付や大会プログラムの掲載などを行うための大会ウェブサイトを、2008 年 7 月 15 日 (火) より開設する予定です。URL 等の詳細につきましては、気象学会ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>) をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、郵送による申込を受け付けます。

なお、大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。

1.1 オンラインによる申込

- ・締切：2008 年 8 月 19 日 (火) 15 時 (日本時間)
- ・大会ウェブサイト参照し、指示に従って申し込みをして下さい。

- ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います (前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが、改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい)。この ID とパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申込・予稿送付・大会参加費決済などを行います。
- ・個人情報と ID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。 登録された個人情報と異なる氏名・所属での講演申込はできません。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込 (クレジットカード決済) を行って下さい。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていな

い場合、講演申込は受け付けられません。

- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・講演申込み締め切り(8月19日(火))までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。

1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2008年8月12日(火)必着
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意下さい)
- ・以下の3点を講演企画委員会事務局(下記)までお送り下さい。
 - ① 予稿原稿
 - ② 講演者氏名(漢字とローマ字)、会員番号、講演種別、連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)、講演題目、主・副キーワードと、使用機器を書いたもの(様式は自由です)
 - ③ 郵便振替払込受領証(次項参照)送付先：
〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所予報研究部内
気象学会講演企画委員会事務局
(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)
- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、
加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい
 - ①「2008年度秋季大会参加申込」と明記
 - ②会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)
 - ③大会参加種別(講演者Aまたは講演者B)
 - ④大会参加費金額
 - ⑤懇親会費金額
 - ⑥合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルはできません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却いたしませんのでご注意下さい。
- ・大会当日に講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会(kouenkikaku2008a@mri-jma.go.jp)までご相談下さい。

2. 講演をしない(聴講のみ)場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン(大会ウェブサイト)による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2008年10月7日(火)までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込む(クレジットカード決済のみ)。

2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2008年9月30日(火)までに、郵便振替で参加費を払い込む。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、
加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい
 - ①「2008年度秋季大会参加申込」と明記
 - ②大会参加種別(聴講者)
 - ③大会参加費金額(3,000円)
 - ④懇親会費金額
 - ⑤合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担でお願いします。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払う(当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意下さい)。

3. 参加費，懇親会費

3.1 大会参加費

- 大会参加費（消費税込）は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

- 講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし，学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

- 講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

3.2 懇親会費

- 懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	5,500 円
学生	3,500 円	4,000 円

- 懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。また当日会場で支払うことも可能ですが，当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

- 一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 大会参加費・懇親会費の種別は，支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。
- 領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。

Ⅲ. 予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか，別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

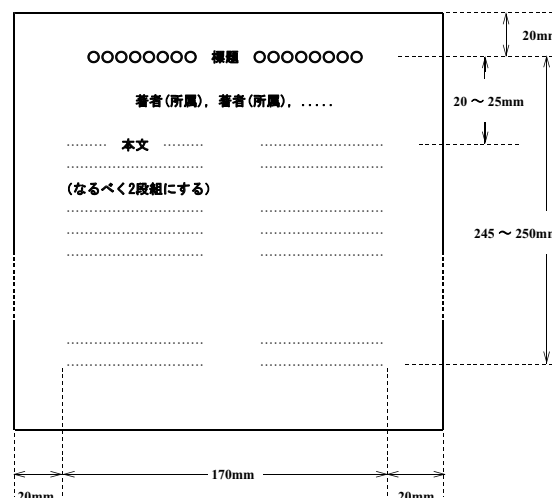
3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は，明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に，カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので，予めご承知おき下さい。

4. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし，上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に標題，

その下に著者と所属を書き，本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつけて下さい。標題から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文はなるべく 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。



図： A4 判用紙による予稿原稿の作成要領

5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は(社)日本気象学会に帰属します。

IV. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（スペシャル・セッションを含む）とポスター発表の2種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。

ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの2件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭 / ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. スペシャル・セッションの概要

スペシャル・セッション（内容についての詳細は「V. スペシャル・セッションのご案内」参照）に申し込まれた発表については、世話人が予稿を審査して、スペシャル・セッションでの発表を認めるかどうかを判断します。発表方法は口頭発表に準じますが、世話人の判断により、講演持ち時間について若干の変更があり得ます。

スペシャル・セッションに申し込まれた発表が、世話人によってスペシャル・セッションに適さない

と判断された場合には、一般の口頭発表に振り替えます。

なお、スペシャル・セッションへの講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は8月19日（火）、郵送申込は8月12日（火））です。

6. ポスター発表の概要

- ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- 掲示スペースは縦180 cm×横120 cm程度です。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- 口頭発表（スペシャル・セッションを含む）につきましては、PCプロジェクターとOHPが使用できますが、それ以外の機器は使用できません。
- OHPを使用したい場合は、講演申込時に届け出下さい。講演申込時に届かない場合はPCプロジェクターを用いた発表とみなします。
- PCプロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
 - パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
 - セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
 - 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの

備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。
- ・ポスター発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合により口頭発表に振替になった場合を想定して、口頭発表時の使用機器の届出をお願いします。

V. スペシャル・セッションのご案内

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士が、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

本大会では以下の7件のテーマでスペシャル・セッションが行われます。

1. 「GAME から MAHASRI へ～モンスーン研究の進展と今後～」

趣旨：GAME (GEWEX Asian Monsoon Experiment ; GEWEX モンスーンアジア観測計画) 集中観測 (IOP)が1998年に実施されちょうど10年になる。国際的には、WCRP(世界気候研究計画)のGEWEX (全球エネルギー・水循環観測計画)での後継プロジェクトとなるMAHASRI (Monsoon Asian Hydro-Atmosphere Science Research and Prediction Initiative:モンスーンアジア水文気候研究計画)が立ち上がり、CLIVAR (気候変動及び予測可能性研究計画)とも共同で2008-2009年はAMY (アジアモンスーン観測年)の集中観測を実施している。本スペシャル・セッションでは、GAME-IOP およびその後に行われたプロジェクト研究等で得られた知見を中心として、GAME-IOP 後のモンスーン研究の進展を整理し、今後の研究の方向性について議論する。

世話人：里村雄彦 (京都大学大学院理学研究科)、松本 淳 (首都大学東京大学院都市環境科学研究

8. その他

- ・申込まれた予稿の内容が、(ア) 気象学とは全く無関係である、(イ) 極めて非合理的・非論理的である、(ウ) 他者を誹謗中傷する部分がある、等の理由により、講演を認めることが適当でないと講演企画委員会が判断した場合には、講演を認めないことがあります。
- ・大会プログラムは「天気」10月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。

科 / 海洋研究開発機構地球環境観測研究センター)、樋口篤志 (千葉大学環境リモートセンシング研究センター)

2. 「極端現象の発生頻度と長期変動：統計的アプローチとその課題」

趣旨：大雨、高温、強風などの極端な現象に対する統計的な知見 (極値の再現確率など) は、防災をはじめとして社会の多方面で必要とされており、近年“異常気象”に対する関心が高まるにつれてその重要性が増してきた。しかし、頻度の低い現象を統計的に評価するという手法上の難しさのほか、非定常性 (長期変動) の扱いやデータの均質性の問題など、解決すべき課題は多い。本セッションでは、極端現象の頻度や長期変動の実態のほか、統計手法に関する技術的問題や利用者側から見た情報の望ましいあり方など、アプローチや研究のあり方についても議論したい。また、利用するデータの確保やその品質についての問題、近年発展の著しい気候モデルを使った極端現象の評価に関する発表も歓迎する。

世話人：藤部文昭 (気象研究所)、松本 淳 (首都大学東京大学院都市環境科学研究科 / 海洋研究開発機構地球環境観測研究センター)、沖 大幹 (東京大学生産技術研究所)、山崎信雄 (気象大学校)

3. 「データ同化と予測可能性」

趣旨：近年、初期値が数値予報精度に与える影響に

ついて理解が深まり、力学的に一貫した高度なデータ同化手法が実用化されている。データ同化研究は、4次元変分法等を開発し現業化した予報現業機関を中心として進められている。大学等教育研究機関でも、アンサンブル・カルマンフィルタの出現により、比較的簡便に高度なデータ同化手法を用いた研究が可能となってきた。データ同化は、追加の観測に適した領域を推定する感度解析や、観測のインパクトを評価する観測システム実験（OSE）に応用され、観測研究とシミュレーション研究を結びつける手段として注目を集めている。また、初期値の感性に関する議論から、予測可能性、アンサンブル予測研究といった分野へと広がりを見せている。このような背景の下、我が国でもデータ同化と予測可能性研究が活発になってきている。本セッションでは、この分野の最新の研究成果を集め、討論を行うことを目的とする。

世話人：榎本 剛（海洋研究開発機構地球シミュレーションセンター）、三好建正（気象庁予報部数値予報課）、山根省三（同志社大学理工学部）、茂木耕作（海洋研究開発機構地球環境観測研究センター）

4. 「惑星大気の新しい観測と理論」

趣旨：惑星大気に関する力学的研究は地球大気の大気力学を諸惑星に適用する形で発展してきたが、観測データの絶対的不足のため、これまでに提出された種々の理論の妥当性を観測事実との比較によって検討するという作業は、これまであまりされてこなかった。近年、惑星大気に対する国内外での関心の高まりから、多くの新しい観測事実が蓄積されつつあり、理論と観測の両面から相互の現状を検討することが喫緊の課題となっている。本セッションでは、惑星大気に関する最近の観測的・理論的研究を対照すると同時に、今後の惑星探査・惑星大気観測の展望もあわせて議論したい。

世話人：高木征弘（東京大学大学院理学系研究科）、今村 剛（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部）

5. 「iLEAPS (the Integrated Land Ecosystem-Atmosphere Processes Study)」

趣旨：地球圏-生物圏国際共同研究計画（IGBP）の第II期では、第I期における大気や水循環に関する

コアプロジェクトを再編する形で、陸域-大気間のインターフェイスの過程を課題とする、統合陸域生態系-大気プロセス研究計画（iLEAPS: the Integrated Land Ecosystem-Atmosphere Processes Study）がコアプロジェクトとして組織された。iLEAPSの目的は、陸域生態系と大気間の物質とエネルギーの移動と変換に関する物理、化学、生物過程の相互作用を解明することにある。気象学会の中でも関連する多くの研究が存在するが、現状では必ずしもそれらの間の連携や情報交換がうまくなされていない。本スペシャル・セッションでは、上記の目的に関連する発表を一堂に会することにより、今後の日本国内での連携を深め、この分野における日本の国際的プレゼンスを高めることにつなげたい。

世話人：近藤裕昭（産業技術総合研究所）、小池 真（東京大学大学院理学系研究科）、近藤 豊（東京大学先端科学技術研究センター）、鈴木力英（海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター）、林健太郎（農業環境技術研究所）、檜山哲哉（名古屋大学地球水循環研究センター）、松枝秀和（気象研究所）、山崎 剛（東北大学大学院理学研究科）、吉田尚弘（東京工業大学大学院総合理工学研究科）

6. 「産業と気象Ⅱ ～気象情報・技術の産業への寄与を考える～」

趣旨：気象（気候）が産業に及ぼす影響は大きく、気象（気候）の調査・研究成果は、従来から、多くの産業に活用されてきた。しかし、近年、異常な気象（気候）状態が頻発するようになり、地球温暖化問題、環境問題などとも相俟って、社会の対応は複雑化してきている。その一方で、気象（気候）の観測・予測・情報通信技術が大きく進展するとともに新たな知見も得られ、そうした事態への対応策を幅広く提案できる技術基盤も整っている。こうした背景の下、このセッションでは、昨年に引き続き、次の観点での発表を募り、産業振興の資を得るとともに実学としての気象研究の課題を涉猟する場としたい。

- ① 気象（気候）が産業に深刻な影響を与えた事例の気象学的分析など
- ② 産業現場の気象（気候）ニーズ（気象（気候）

の影響と深刻度、気象情報・技術の利用目的など)

- ③ 気象（気候）の情報・技術等の、利用成功事例・失敗事例など
- ④ 提供可能な気象（気候）情報・技術（有効な従来情報・技術、最近提供可能となった情報・技術、近い将来提供可能となる情報・技術）

講演内容は、上記①～④のほか、他の複合した内容や研究の中間報告でもよいので、多数の発表をお願いしたい。

世話人：岩崎俊樹（東北大学大学院理学研究科）、小田嶋孝一（仙台管区気象台）、菅野洋光（東北農業研究センター）、岩田 修、白石晶二（日本気象予報士会）

7. 「ミャンマーサイクロン」

趣旨：ことし（2008年）5月上旬、サイクロン Nargis が、ミャンマーのデルタ地帯に上陸し、甚大な被害

をもたらした。これまで北インド洋のサイクロンについては、バングラデシュのサイクロンの被害調査などは行われているものの、ミャンマーに被害をもたらしたサイクロンについては研究があまり行われていない。今回のサイクロンはどのように発生したのか、なぜ急発達したのか、進路が特異だったのはなぜか、あれだけの大きな被害が出たのはなぜか等、多くの解明すべき点がある。本セッションでは、これらの点について調べた研究結果を発表する機会とするとともに、気象学的なアプローチだけでなく、水文学的な見方、海洋学的な見方などについても発表をお願いしたい。さらに、北インド洋でのサイクロンについて調べた結果などについても議論したいと考えている。

世話人：佐藤正樹、高藪 縁（東京大学気候システム研究センター）、中澤哲夫（気象研究所）、林 泰一（京都大学防災研究所）

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の規定を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

- 1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員

の講演を認める（予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

- 2. ただし、スペシャル・セッションに関しては各世話人の判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

VII. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として可能な支援をします。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2008a@mri-jma.go.jp）に申し込んで下さい。

なお、今大会では、大会会場を利用する場合には

別途会場利用料（実費）が必要になりますので、ご承知おき下さい。

申込期限：2008年8月19日（火）

- 記入事項：
- 1. 会の名称とテーマ
 - 2. 代表者の連絡先
 - 3. 希望日時・開催場所
 - 4. 予想参加人数
 - 5. 希望する支援内容

VIII. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の斡旋を予定しております。詳細については大会ホームページ開設（2008年7月15日（火）を予定）に合わせてご案内致します。